

第20回高知県公立大学法人評価委員会 議事要旨

平成28年2月16日(火) 13:20~14:05

場所：高知会館 2階 天平

出席者

評価委員：宮田速雄(委員長) 木村靖二 森下勝彦 寺田覚 濱中俊一  
県：岡村私学・大学支援課長 行宗課長補佐 大窪チーフ 服部

委員長

高知県公立大学法人第2期中期目標等の策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いする。

事務局

・・・説明・・・

委員長

スケジュールについてはこの内容で進めていくこととする。

委員長

次に地方独立行政法人法第31条に係る検討について、事務局から説明をお願いする。

事務局

・・・説明・・・

D委員

現在の中期目標にも大学内の安全管理体制について記載しているが、情報セキュリティの事も、時代に対応して重要となってきたので、明記したほうが良いと考える。

事務局

先日も国立大学等へのサイバー攻撃による被害に関するニュースがあったが、大学は研究成果など重要な情報もあることから、情報セキュリティについても明記することとする。

A委員

中期目標ではなく中期計画などの中で、地元定着率や県内出身者割合、省エネなど、努力目標として数値化できるものは数値化するようにした方がよい。また、実績報告書など書き方が統一されていないものについても〇年目までに統一するなど、具体的な数字を入れて実施する方がよい。

また、公立大学だから仕方がないが、「官」との連携については多く記載されているが、「民」との連携について記載がないように感じる。今後経済団体等「民」との連携も重要となってくることから、目標・計画に入れていくようにした方がよい。

委員長

目標の中に数値を入れるのではなく、計画の中に入れるという考え方がいいか。

A委員

目標は一定抽象的になるのは仕方がないが、計画は具体的に記載すべきであるため、中期目標には、数値化のされている計画が〇割など、明確

な基準が必要である。

事務局 大学法人に示す原案でも、可能な限り明確な計画を定めとしているが、可能な限り数値化を図りなどに変更し大学に指示することとする。

A委員 項目が多いというのはどのくらいを想定しているのか。国立大学では当初600項目くらいあったが、文部科学省からの指導などで、一気に減らし、数十項目まで減っているところもある。

事務局 県立大学及び短大の年度計画はこれまで150項目弱で推移しており、工科大は80項目程度で推移している。  
公立大学協会が実施したアンケートによると、100項目から150項目で設定している法人が最も多い。高知県公立大学法人でも具体的にイメージを持っている訳ではないが、現在両大学で計画の細かさがないところもあるので、細かさのレベルあわせなどを行い、項目を減らしたいと考えている。

C委員 今後の方向性のところに、明確な目標とあるが、どのような意味か。

事務局 できるだけ評価しやすい目標という意味であり、また教職員が共通認識できるような目標にしたいという意味である。

C委員 法人統合のメリットとあるが、これは法人としての効果・メリットなのか、大学としての効果・メリットなのか。

事務局 法人としてのメリットはこれまでそれぞれで開催していた理事会が一本化されるなどあるが、大学の教育面においても、大学間連携を強化し一緒にできるものは一緒にやるということも考えられる。これまでの両法人のいい部分を利用し、事務組織の機能などの効率化を考えている。

A委員 効率化と言えば、お金のことだけになるため、もう少し具体的に記載したほうがいい。

D委員 県民に対する説明責任とあるが、一般的には社会に対する説明責任ではないのか。

事務局 社会に対する説明責任に修正する。

委員長 本日の会はこれで終了する。(了)